



# 第38回ひがしかわ氷まつり 標津町からいづれも当地どんぶり初見参

冬の祭典「第38回ひがしかわ氷まつり」が1月21、22、23の3日間、羽衣公園をメイン会場に開かれ、期間中の天候は「しばれ」も一段落。家族連れ的笑顔と歓声が会場いっばいにあふれました。

今年は準備期間中から安定した天気が続

き、夜間の冷え込みは最高潮。雪像17基の本格的制作が始まった18日以降は夜間の気温が連日氷点下20度以下まで下がり絶好の制作日和になりました。

21日夜の前夜祭花火大会も風もなく安定した天候で、家族連れが冬の夜空いっばいに広がる花火の饗宴を楽しみました。

今年の会場には「全国」当地どんぶり選手権（1月7-15日、東京）に出場した「しべつ鮭三代漬丼」が限定600食の場内特別販売で初見参。道東から直送の浜の味が場内に華を添えました。

昨年12月から始まった「東川町・標津町、街をげんきにしようとおもう交流会」（発起人・松木正之代表）の交換交流で根室管内標津町から来町した



東川町・標津町相互交流で初お目見えの「しべつ鮭三代漬丼」は大好評

皆さん。花火打ち上げにも加わって祭り盛り上げに一役。

雪像コンクールでは、台湾から語学留学で来町している台湾チーム制作の「台湾101タワー」が優秀賞を獲得しました。

東京の氷土会新会員が氷像を制作始動  
町内の氷彫刻グループ、氷土会（成田隆会長）で、2年ぶりに新入会員が制作デビューしました。

東京都杉並区在住の原賢一さん（44）。氷彫刻コンクールで「神様ありがとう」という作品を制作、見事な腕前を披露しました。

氷彫刻に魅せられて27歳の時からロシア、スウェーデンなど各国の氷彫刻大会に出場して腕を磨いてきたそうです。

氷土会には2年前に入会。本格的活動を始める前、マイカー通勤の途上、

後続車に追突される事故で1週間意識不明の上、脊髄（せきずい）損傷、両腕両神経麻痺（まひ）という重傷を負って入院治療。1年8カ月間のリハビリ期間を経てようやく通常の生活が出来る程度に回復し、氷土会デビューしました。

「両手の握力は35キログラムまで回復しました。この制作が最良のリハビリ」と復帰第1作。今冬はこの後、さつぽろ雪祭り、網走流氷祭りでも氷土会会員として氷彫刻を制作予定です。



第38回ひがしかわ氷まつり			
氷彫刻旭川支部コンクール			
順位	作品名	氏名	所属
優勝	群舞	森田 久	旭川ICC
準優勝	ジンバイザメ	山本 剛史	〃
3	ダンス	安田 納	札幌支部
4	きらめき	長谷川克徳	深川氷彫刻会
5	フォレサイト・ドリーム	細川 雅豊	東川氷土会
雪像コンクール			
順位	作品名	団体	
最優秀賞	マリオ&ヨッシー	北海道環境福祉専門学校環境保全学科	
優秀賞	ポテラ	旭川ケーブルテレビ(株)	
〃	台湾101タワー	台湾日本語留学生	
努力賞	絆チョッパー	JAひがしかわ	
〃	こうふくろう	(株)東川振興公社	



▲雪像コンクールで優勝した環境福祉専門学校の「マリオ&ヨッシー」



▲雪像コンクール優秀賞を受賞した台湾留学生チームの「台湾101タワー」制作風景(1月20日)